



北東中だより



春風や 闘志いだきて丘に立つ

NO. 9

文責 仙洞田茂雄



酉年！飛躍！夢を叶え羽ばたく年に



2017年。早いもので既に1ヶ月が経とうとしています。穏やかな年の初めでしたが、3学期が始まり、連日寒い日が続いています。厳しい寒さの中、朝練や様々な事に取り組む生徒を見ていると、あらためて北東中生の素晴らしさを感じます。

3年生はいよいよ義務教育を終える学期を迎え、そして高校受験に向かい、今全力で頑張っています。県外受験や既に始まった県内受験を終えている生徒も少しずつ出ています。2年生はいよいよ最高学年になるという準備段階の中で、一段とたくましくなり、部活動に諸行事に取り組んでいるところです。また、来年度の修学旅行への取り組みも、着実にすすめています。1年生は、中堅学年という大事な時を迎えるために、学級・学年の総まとめに向かい頑張っています。入学してきた頃よりも、大きく成長し、新入生がいつ入ってきても頼れる先輩になりつつあります。

今年度も残すところ2ヶ月となりました。これまでを振り返り、更に本校の学校教育を充実させ、職員一同力を合わせて、子どもたちの未来のために、日々の教育に邁進していく所存であります。保護者の皆様、地域の皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。



充実の3学期を送るため



自主学習の大切さ 生涯学ぶ姿勢を・・・

高校受験も本格的に始まりました。それぞれの夢に向かい、受験勉強に励む生徒を見て、あらためて「学ぶこと」「積み重ね」の大切さを感じます。夢や目標をしっかりと持ち、日々勉強を続けることで、実現できることが一つ一つ増えるものです。高校受験はその一つの通過点でもあります。

「一生勉強」とは良く聞く言葉ですが、義務教育9カ年の勉強が人の一生を決める基礎となることは間違いありません。昨日ある生徒がこんなことを言っていました。

◆私は中学1年生から3年生まで、毎日欠かさず自主学習を行いました。主に授業の予習や苦手な教科の復習などで、学力の向上に励み、その結果徐々に成績も上がってきました。私は日々の積み重ねの大切さを学びました。自主学習を行ってなければ、学力の向上も図れず、今はなかったと思います。そして勉強をすることで、自分の様々な知識が確実に増えたことを実感しています。今後もっと勉強に力を入れ、今学期の成績が中学校で1番良いものになるように頑張りたいです。◆ 1人ひとりの確実な歩みを期待しています。

心身の健康管理を 健康は宝・・・



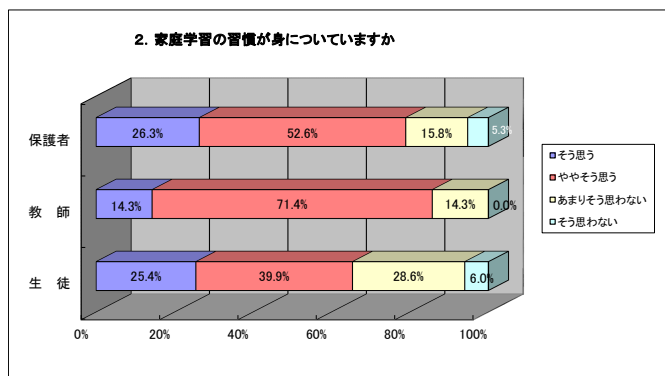
さて、保健室からもお知らせしていますが、本校でもインフルエンザの流行によって学級閉鎖をしている状況です。県内でも多くの学校で学級閉鎖等が出ていますので、子どもさんの家庭での様子や体調変化には充分注意して頂きたいと思います。

1・2・3年生それぞれが充実した3学期を送るために、まず「心身が健康であること」は欠かせません。そして「豊かに学びを深めること」が大切です。一段とたくましく成長する3学期になるよう願っています。



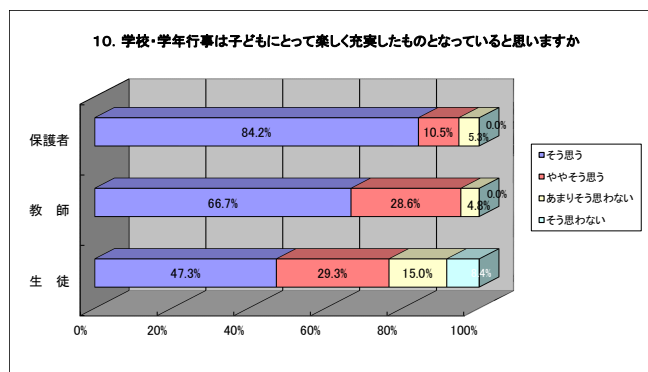
残り40日! 決意新たに!

学校評価より



左記は12月に行った学校評価アンケート（保護者・教師・生徒対象）の一部です。この設問では、生徒が「家庭学習の習慣が身についていますか」の問いに対し、「そう思う・ややそう思う」が65.3%。「あまりそう思わない・思わない」が、34.6%となり、多くの生徒の学習習慣が身についているものの、身につけていないと思われる生徒もいることが分かります。今後も毎日の自主学習、家庭学習への取り組みをしていきたいと考えます。

また、「学校行事は子どもにとって楽しく充実したものになっていると思いますか」との設問に対しては、保護者の方々からはとても良い評価をいただきました。生徒からは、「あまりそう思わない」などの意見もあり、行事を通して達成感を味わえない実態もあることがわかり、今後全生徒にとって、楽しく充実した行事への検討・改善に努めていきたいと考えます。



前ページの話のように、宿題以外の自主学習を毎日継続することで、自信と意欲が沸いてくるものと思います。苦手なものを理解し頑張ろうとする強さといった、学習習慣が徐々に身につく、基礎・基本の定着が図られるものと思います。学校でも授業改善に更に努め、併せて、誰もが充実した楽しい学校を目指し、そして、学校と家庭とがより連携をし、家庭学習が定着し、学力向上が図られるようご協力をお願いします。

全国都道府県女子駅伝大会に参加して

陸上部2年 大澤 奈々穂



私は1月15日に京都で行われた全国都道府県女子駅伝に山梨県代表として参加させていただきました。陸上で長距離を種目としている私にとっては、都大路を走るとは憧れだったので、思いっきり頑張ろうと望んできました。出発する前日、多くの人に「頑張ってね」などと声をかけてもらい、とても励みになりました。本番当日、大雪の中、中学生区間8区3kmを走った時のことを、緊張したためか、あまり覚えていません。しかし、とてもいい経験が出来たと思っています。全国大会に出場したことがある選手や地区大会などで上位入賞した選手など、レベルが高い選手たちと一緒に走れたことや、中学生、高校生、大学生、実業団の選手など年齢が違う人たちと一緒に襷を繋いだこと、雪、気温は2℃、すごく天候の悪い中走れたこと、全てが今の自分にとってとてもいい勉強になりました。

結果は自分の目標としていた順位、タイムには程遠い結果になってしまい、とても悔しい思いをしました。現在私は2年生なので、もう一度中学生区間でこの大舞台にたてるように、悔しかった思いをうれしい思いに変えられるよう、更に練習を頑張っていきたいと思っています。テレビなどで応援して下さった多くの人に心から感謝しています。ありがとうございました。

結果は自分の目標としていた順位、タイムには程遠い結果になってしまい、とても悔しい思いをしました。現在私は2年生なので、もう一度中学生区間でこの大舞台にたてるように、悔しかった思いをうれしい思いに変えられるよう、更に練習を頑張っていきたいと思っています。テレビなどで応援して下さった多くの人に心から感謝しています。ありがとうございました。



本は心の友たち

読書してありますか
～ 図書館より ～

2016年に行った全国図書館調査によると、中学生の1ヶ月平均の読書冊数は、4.2冊と昨年より増加傾向にあるそうです。小学生も0.2冊増の1.1、4冊、高校生は0.1冊減の1.4冊。本校の1人平均読書冊数は、本年度（H28、4、1～H29、1、17）9.3冊となっています。小中学生の場合は、朝の読書運動の習慣化が増加傾向をもたらしているとの説が有力のようです。「皆で同時に行う」「毎日行う」「読む本は自由」「読むだけ」の4原則のもとに行われています。中学生の時の読書体験は高校生になってから、その力が出てくると言われています。ぜひ、この中学生の時に、1冊でも多く良い本に出合うことを願っています。



全国の中学生が「朝の読書」（学校）で読まれた本と、本校の生徒によく読まれた本を紹介しますので、参考にして下さい。

	全国の中学生によく読まれた本		北東中生によく読まれた本
1	空想科学読本（柳田理科雄 著）	1	ソードアート・オンライン（川原 礫 著）
2	カゲロウデイズ（じん）	2	デュラララ！！（成田良悟 著）
3	ハリー・ポッター（JK ローリング）	3	告白予行練習（HONEY WORKS）
4	ソードアート・オンライン（川原 礫）	4	とある魔術の禁書目録（鎌池和馬 著）
5	デュラララ！！（成田良悟 著）	5	掟上今日子の備忘録（西尾維新 著）
6	王様ゲーム（金沢伸明 著）	6	カゲロウデイズ（じん）
7	キノの旅（時雨沢恵一 著）	7	死神うどんカフェ（石川宏千花 著）
8	永遠の0（百田尚樹 著）	8	中学生の成績の上がる！教科別ノートの取り方（小澤淳 著）
9	鹿の王（上橋菜穂子 著）	9	真田十勇士（小前亮 著）
10	物語シリーズ（西尾維新 著）	10	ぼくらシリーズ（宗田理 著）
11	図書館戦争シリーズ（有川 浩 著）	11	ログ・ホライズン（橙乃ままれ 著）
12	アオハライド（ノベライズ版）	12	妖怪アパートの幽雅な日常（香月日輪 著）
13	本の怪談シリーズ（緑川聖司 著）	13	三角のオーロラ（小竹正人 著）
14	君に届け（ノベライズ版）	14	復活！虹北学園文芸部（はやみねかおる 著）
15	浜村渚の計算ノート（青柳碧人 著）	15	ソロモンの偽証（宮部みゆき 著）
16	君の友だち（重松 清 著）	16	少女（湊かなえ 著）
17	春日坂高校漫画研究部（あずまの章 著）	17	夜のピクニック（恩田陸 著）
18	ビブリア古書堂の事件手帳（三上延 著）	18	火花（又吉直樹 著）
19	探偵チームKZ 事件ノートシリーズ	19	天と地の方程式（富安陽子 著）
20	ホームレス中学生（田村 裕 著）	20	人生はニャンとかなる！シリーズ（水野敬也 著）



その他にも広島カープ黒田博樹著「決めて断つ」、日本の古典を読むシリーズの「源氏物語」、紺野リリ著「ネットホラー（スマホの中には悪魔がいる）」百田尚樹著「海賊とよばれた男」「永遠の0（ゼロ）」なども、じわじわ読まれています。子どもさんを通して、ご家族の方にも貸し出しができますので、興味のある本についてご家庭で話題にしてみるのも良いのではないのでしょうか。

図書館で・・・3年生にインタビューしました・・・

「本の面白さは？」と聞きました。「気持ちが落ち着く」「いろんなことを知ることができる」「本を読んでいてその本が物語だったら、その作者が、全ての目線で、全ての世代に共感できるもので作り上げられることがすごい！と思って読んでいる」「その本の内容が、日常的でないこともあるが、広がる世界観が面白い」「作者の語学力に感動する」「不思議な雰囲気があって引き込まれる」「本がドラマ化されると、また本の世界が広がる」など本の楽しさをいろいろ語ってくれました。

忘れてはならない 日本人の心



故郷山形県鶴岡市で、教師生活を2年間送った後、庄内平野を舞台に多くの時代小説を世に排出した藤沢周平氏。日本の美しい山々と川、一望に広がる田んぼといった風景と時代を生きた人々の心を見事に描写している。昭和48年に直木賞を受賞し、近年では映画化され多くの人に親しまれるようになった。「作品を読むと忘れていたものを思い出します。つましさの美しさ。かつての日本人はみんなこうして生きてきたのです。」

「弱いものに対する温かいまなざし。普通に生きることの大切さ。藤沢作品を読むと、しみじみ心が温まります。」と読者の声が聞こえる。日本人が忘れかけている、日本人としての気高さ、優しさ、懐かしさに心が揺さぶられる。

「国家の品格」（著者：藤原正彦氏）の中で著者は「日本人の持つ情緒やかたちとはどういうものか、それは自然に対する繊細な感受性です。」と。また、イギリスのある外交官は「自然への感受性や美を感じる心という点で日本人に勝る国民はいない。」と書いている。

秋になり遠くから鈴虫の音が聞こえてくると、心が洗われ、秋の憂愁に心を静ませる。桜の花が咲く三、四日に無上の価値を置き、潔く散っていく花に人生を投影し、そこに格別な美しさを見出している。人間の儂（はかな）さや、悠久の自然の中で移ろいゆくものに美を感じる、というたぐいまれな能力、感性が日本人にある。茶道・華道・書道俳句や短歌等に秘められた美、それぞれの感性の中に、日本人の素晴らしさに気づくことができる。

春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて すがしかりけり ～道元禅師～

日本には美しい四季があり、その環境の中で何千年も暮らしている。自然に対する感性は、この国で生まれ育った私達の誰の心にもあり、心を浄化させてくれる。そして、移りゆく季節とともに、新たな自分を発見させてくれる力がある。

「大切にしたい日本人の心」 それぞれの夢をかなえる1年が始まった。

本年もよろしくお願ひ申し上げます

今後の予定

1月27日	学校PTA委員会
2月6日	新生保護者説明会
11日	建国記念日
13日～14日	3年期末テスト
15日	1・2年授業参観 学級懇談会・学年懇談会
23日～24日	1・2年期末テスト



百人一首大会 1年生

